**第6章　事後学習ワークシート**

1.保育所保育指針の「第1章 2 養護に関する基本的事項 (2)養護に関わるねらい及び内容　イ情緒の安定　（ア）ねらいおよび（イ）」を書き出し，アタッチメントと関わると思う部分に下線を引いてみよう。

|  |
| --- |
|  |

2.アタッチメント行動の発達段階について，本文を見直し空欄を埋めてみよう。

1）第一段階　出生～おおむね生後12週ころ

この時期の乳児は，ヒトに対して視線を向ける，手を伸ばすといった定位行動や，微笑む，声を発するといった行動が見られる。これらは（　　　　　　　　　　）と呼ばれるものである。ただし，個人を区別する力は制限されているため，特定の他者との関係というより，（　　　　　　　　）へアタッチメント行動を向ける。

2）第二段階　～生後6か月ごろ

　第一段階に続いて，他者の区別なく関わろうとするが，個人を区別する能力が発達してくるため，養育者のような（　　　　　　　　　　　　　）へよりアタッチメント行動を向けるようになる。

3）第三段階　～2，3歳ごろ

　更に個人を区別するようになり，（　　　　　　　　　　　　　　　　　）への区別を明確に示すようになる。養育者には，離れると（　　　　　　）をしたり，戻ってきた際に歓迎したり，（　　　　　　　　　　　　）とするようになる一方で，見知らぬ他者を警戒しその人物から撤退する行動，いわゆる（　　　　　　　　　　）を見せるようになる。また，後述する手段‐目的関係を理解するようになることに支えられ，アタッチメント行動が目的修正的に組織化されるようになる。

4）第四段階　3歳ごろ～

　アタッチメント対象の認知的なイメージが形成され，時空間的に連続したものとしてアタッチメント対象を捉えるようになる。また，身近な他者の行動の背後にある設定した目標や計画にある程度気づき，自分の行動を柔軟に変更することで，（　　　　　　　　　　　　　　）を築くようになる。

3.赤ちゃんが気持ちを表している場面を観察し，どのような表現で赤ちゃんが気持ちをあらわしているかを書いてみよう。赤ちゃんの表情や声だけでなく，体の動きや相手とのタイミングのずれ，どのような状況かについて等，様々な観点からまとめてみよう。直接観察する機会がない場合は，動画等を見るのもよいですね。

**200字程度**

|  |
| --- |
|  |

4.友人と二人組になり，それぞれ大人役，乳児役になってコミュニケーションをとるロールプレイをしてみよう。5分程度やりとりをしたら，役割を交代してコミュニケーションを再びとってみよう。

**大人役**：赤ちゃんに接するように，話し掛けコミュニケーションをとってみよう。

**子ども役**：意味のあることばを使わず，それ以外の方法で大人役の人とコミュニケーションをとってみよう。

　それぞれの立場から，相手がどのようにふるまった際に，コミュニケーションがうまくいったと思うかを話し合い，整理して以下に書いてみよう。

**大人役：200字程度**

|  |
| --- |
|  |

**乳児役　200字程度**

|  |
| --- |
|  |